

意欲的に教材開発する社会科教師を育てる

～巡検をととして社会的事象をとらえる力を養う～

神奈川大学人間科学部教職課程非常勤講師 高橋 和 男

1 世代交代と指導力の継承

錆びないうちにいかに磨くか

「たとえよい素材を持っていたとしても磨かなければ錆びていってしまう

錆びないうちに研究会で自分自身を磨きなさい」(初任のときに言われた言葉)

社会科教師は社会科「授業」のプロであれ...授業力向上が自分の課題となった

今 指導力の継承が喫緊の課題

2 本物を見る

まず社会的事象に関心を

実は教材はいたるところにある → 社会的事象をいかに教材化できるか

本物を多く見る

感動が教材に命や力を与える「百聞は一見にしかず」

五感をすべて使って実体験した感動に勝るものはない

手作りの巡検(49回) その意義

参加の意義 本物に接する経験をもてる → 実感や体感

講師経験の意義 下見や下調べ → 勉強会 → 説明 → 忘れられない経験

3 巡検での学びを授業に活かす

目を見開かされた (1977年 諏訪巡検)

諏訪精工舎(精密機械工業) なぜ諏訪に工場を建てたのか

【当時の教科書の記述】 東洋のスイス きれいな空気と豊かな水

【現地での説明】 きれいな空気や水は東京の工場でも作れる

最大の理由は 戦時中に東京から諏訪に工場疎開をしたこと

戦後 東京に引き上げる選択肢もあったが この地にとどまった

化学繊維の台頭により繊維業が不振

多くの女工が余っている 労働力を活用できるという好条件

授業に転機 考えさせる授業が実現

「諏訪地方はなぜ精密機械工業の集まる地域になったのだろうか」(立地条件)

生徒の予想 ・水と空気 ・優れた技術者がいた

・製品が小さいので大量輸送 ・時計は高価だから採算があう

・製糸業の衰退と精密機械工業の発展の時期を考える生徒も

→ 考える地理学習が展開できるようになった

授業がおもしろい!

授業者の懐が広ければ広いほど 引き出しが多ければ多いほど

生徒は自由にしかも本質に迫る発想をし豊かな考えを出せるようになる

寂寥たる風景に身震い (1984 年 足尾巡検)

夕闇迫る中 木々の枯れた山の稜線を歩く鹿の隊列を見た

あのときあの光景を見たからこそ 鉱毒被害の大きさが想像できた

田中正造の言葉を熱く語る郷土研究家に心打たれた

「真の文明は 山を荒らさず川を荒らさず村を破らず人を殺さざるべし」

放置されたレタス (2012 年 上田・松代巡検)

菅平で畑に放置されたままのレタスを食べた ← 市場値崩れ 採算あわず

大型保冷施設 保冷設備のトラック 沖縄までも

他の高冷地では代表的作物や出荷先が違う → 対比させるとよい

桑から果樹へ (1996 年 甲府巡検)

中央自動車道がくぐる陸橋の角度 8% = 扇状地の傾斜角

ももと対話する農家 ← 反射マルチシートをいつ敷くか

甲府盆地の扇状地の土地利用の変化とその理由

他の盆地ではどうだろう → 学習成果を他の地域に転移できる

ハッ場ダム建設に翻弄された地域 (2002 年 上州巡検)

「対立と合意」の教材として 建設賛成派 反対派 中立派

住民の立場 町役場の立場 企業の立場 他都県(治水や水資源供給)の立場

4 魅力ある社会科教師に

教師自身が学ぶ姿勢をもつ ← 生徒は教師の姿を観察している

- ・ 社会的事象への興味・関心をもてる教師
- ・ 本物に接し 考える喜びや実感する喜びを生徒と共有できる教師
- ・ 常に疑問や課題意識を大切にできる教師
- ・ 調べることをいとわない教師
- ・ 体験や調査したことを教材化できる教師

巡検の意義は 単に実物を見ることだけではない

何年か経って行くと 変容がわかる

異なる地域で同じように発達した産業については共通点や相違点を対比できる

本物を見る機会を多くもち 事象の本質をとらえる力の育成を

本物を多く見る → 全体像や 脳裏の中の実物との比較ができる

部分から全体像が見えてくる

共に学ぶ喜びを大切に 積極的に教材開発を

学校は多忙 だからこそ研究会が本物を見る機会を作り学びあえる環境を